



第49号

平成28年7月10日発行
日本獣医生命科学大学
同窓会
東京都武蔵野市
境南町1-7-1
発行者 中條 眞二郎
直通電話・FAX
0422-33-2916
E-mail dosokai@nvlu.ac.jp
URL http://nvlu-dosokai.
academic-sol.com/

熊本地震の被災者の皆さまに

心から御見舞い申しあげます

日本獣医生命科学大学同窓会会長

中條 眞二郎



熊本県、大分県支部会の皆様、近在の九州支部の皆様には、大変な心身の痛手を被ったことと紙上を借りて御見舞いを申しあげます。この度の大震災は二ヶ月を経てもいまだに収まらず、地震速報が毎日報道されており、4月14日に震災に見舞われ、かつて経験のない余震が長きに亘り、地震の怖さをまざまざと知らされ、自然の力に対する人の無力を痛切に感じます。熊本支部、大分支部の会員の個人々の方の顔を思い浮かべ、被害に遭われていないかと心配しておりますが、未だに詳細な状況は把握されておりませんが、幸い亡くなった方はいないようで、胸をなで下しております。しかし余震のため、帰宅でき

ず車上生活を余儀なくされている同窓生もおられるようで、早く平穏な生活に戻られることを御祈り申しあげます。同窓会の御世話をさせていただいた中で、阪神・淡路大震災、東日本大震災に遭遇した会員の皆様の辛い話を思い出し、身につまされる思いです。

本年度の母校入学式の4月5日は、中庭の桜が新入生を待っていたかのように散るのを遅らせ、歓迎の式典に春爛漫の華やかさを添えてくれました。本年度は、387名の準会員の新生を迎えました。4年、6年後に成長し同窓会正会員となるのを楽しみに、同窓会を代表して御祝いの言葉を述べさせていただきます。

大学は、学生の受け入れと輩出を繰り返して、135年の星霜を数えました。畜産食品工学科（現食品科学科）の開設は昭和42年に、畜産学科は経営畜産学科（現動物科学科）と改組して昭和43年に再開致しました。今年度、両学科50年の節目としての御祝いを両学科の先生方が企画中で、同窓会も全面的

な支援を計画しております。詳細な御案内は後便にて御知らせ致します。先にも御知らせ致しましたが、応用生命学部の両学科は、新教育棟に素晴らしい研究室ができました。この機会に第二校舎で学んだ食品工学科は新教育棟6階に、校地北側の木造校舎やD棟で学んだ経営畜産学科は新教育棟5階へ移転した研究室の変貌を自分の目で確かめてください。両学科の同窓生・級友、クラブ関連の会員同志で御誘い合わせのうえ、是非来校されることを御奨めします。大学周辺の武蔵境の変貌にもきっと驚かれると思います。

懸案でありました同窓会会館設置につきましては、大学の施設整備に支援・協力が先見事項として参りましたので、本件は先送りとなっていました。130周年記念事業教育棟の完成で教育・研究施設整備は一段落となりましたので、会館の設置について検討をしました。しかし、大学の敷地内に土地の提供を御願いできる余裕は全くなく、独立した会館建設は断念せざるを得ませんでした。学校法人日本医科大学理事長の御理解と御協力を得て、同窓会室を本館事務部に二室の貸与許可を頂きました。本年度の事業として同窓会室の移転に取り組んでおります。先般、4月1日に池本学長と同窓会で貸与契約書をお交わしました。同窓会室の設計等を大学事務に提出し、近々には改装と移転を終える予定です。現在の同窓会事務室は、動物医療センターの5階エレベーター脇の小さな部屋で大変狭でしたが、今回は同窓生も満足できるスペースの確保ができたと思います。本館玄関を入り直ぐ右側の二部屋は、事務室と会議室兼応接室として同窓生がくつろげるスペー

スも考えております。来校した折は気軽に、同窓会に立ち寄ってくださいと同窓会室の設置に奔走した永年の苦労が報われます。

同窓会会長として、今後の同窓会は獣医学科依存から全学科による会の運営によって共存・共栄を語った同窓会組織としなければならぬと常に考えてきました。130余年の歴史ある獣医学科の卒業生、50年を経た応用生命学部両学科の卒業生と10周年の獣医保健看護学科の会員数が逆転することは学生定員数をみれば当然であります。手始めに同窓会会則の改定を行う予定で、代議員会に修正案を提示、来年度まで十分に検討時間を持ち平成29年度代議員会で決定したいと思っております。本件案について会員の皆さまの御意見は当然ですが、何卒自分の会則と申って修正案の御支持をお願い致します。

平成二十八年度

同窓会代議員会開催が決定

平成28年度の同窓会代議員会は、平成28年7月23日（土）午後1時から開催が決定しました。会則に基づき代議員を選出し、代議員へ直接「議案書」を御送りするよう準備を進めてまいります。この会報が御手元に届くころにはすべての手続きが完了しているものと思えます。

同窓会・母校のさらなる発展のためにも、支部をはじめ、代議員の方々の御協力を御願ひ致します。

詳細については次号会報にて御知らせ致します。

事務局だより

同窓会本部への連絡

土・日・祝日を除く午前10時から午後4時まで勤務しています。留守番電話、ファクシミリ、郵便、Eメール等にも受け付けます。連絡先は本会報一面に記載しています。

住所変更届けの御願ひ

本会報が届かない会員は、住所の変更（市区町村番地変更を含む）あるいは住所登録がされておりません。届かない会員がいましたら本部事務局へ住所登録をするよう御伝えください。登録用紙は名簿差し込みか、ホームページから印刷してください。

次に該当される会員は本部へ連絡をお願いします

他大学で学位を授与された会員。国会議員、市町村長、市議会等へ選出・再選された会員。叙勲を授与された会員、ご逝去された会員など。連絡は情報提供者を特定できる、電話以外の方法にて御願ひします。

会費納入のお願い

本会の事業は、会員の会費によって運営されています。平成27年度までの会費未納の方は、御連絡いただければ払込み取扱票を御送り致します。郵便局での振り込み取扱票には、御忘れなく郵便番号、住所、氏名を記載し、通信欄には卒業学科と卒業期（封筒の住所ラベルの区分）を記載してください。住所等変更のある方は払込取扱票の通信欄記載

の変更有りに丸印してください、登録変更を致します。

同窓会ホームページのURLは本会報一面に掲載しています。会員の各種集案内などホームページにて掲載・案内します、御利用ください。

母校付属動物病院との連携動物病院の申請

連携動物病院登録申請手続きの窓口は同窓会事務局です。詳細については同窓会ホームページの案内、あるいは同窓会事務局へ御問い合わせください。

今年度も大学祭でブースを開設

今年度で3回目になりますが、母校の大学祭にブースを開設します。会場は母校本館一階に新設される同窓会会議室を予定しております。11月5日（土）、6日（日）の二日間で、午前11時から午後4時まで開設を予定しています。

当日は会場を開放して、寛げるようにして御待ちしています。大学祭や母校の見学、大学祭期間中の会合などのついでに御立ち寄りください。

同窓会関係情報

叙勲者

（本部に届け出のみを掲載）

平成27年4月

大学15期 國谷 寛（瑞宝小綬章）

訃報

今井 莊一名誉教授（平成27年5月5日）

学位取得者

（平成27年8月～平成28年5月）

大学院課

修士取得者一覧

氏名	学位授与年月日	所属教室
小原 幸弘	平成28年3月10日	獣医解剖学
小林 正人	平成28年3月10日	獣医臨床病理学
佐藤 朝香	平成28年3月10日	獣医外科学
中平 嶺	平成28年3月10日	獣医病理学
野澤 聡司	平成28年3月10日	生体分子化学
箱崎 貴治	平成28年3月10日	獣医外科学
吉松 宏基	平成28年3月10日	獣医内科学
佐藤 寛子	平成28年1月21日	獣医病理学
岩崎 永治	平成28年2月25日	獣医生化学
宮部 真裕	平成28年3月10日	獣医保健看護学臨床部門
野原 正勝	平成28年3月10日	実験動物学

博士取得者一覧

氏名	学位授与年月日	所属教室
大森 聖	平成28年3月10日	動物生産化学
小沢 聡恵	平成28年3月10日	動物生殖学
金田 弘実	平成28年3月10日	実験動物学
澤田麻紗子	平成28年3月10日	食品化学
関 真里乃	平成28年3月10日	食品衛生学
玉井 宏平	平成28年3月10日	食品機能化学
玉川 聡美	平成28年3月10日	システム経営学
對馬 健太	平成28年3月10日	食品バイオテクノロジー
三橋 純	平成28年3月10日	農産食品学
茂川 拓紀	平成28年3月10日	実験動物学
森山 雄太	平成28年3月10日	実験動物学
米山 遼	平成28年3月10日	動物生産化学
荒井 香南	平成28年3月10日	獣医保健看護学基礎部門
遠藤 友彦	平成28年3月10日	獣医保健看護学応用部門
銀 梓	平成28年3月10日	獣医保健看護学臨床部門
小林 真歩	平成28年3月10日	獣医保健看護学臨床部門
清水 茜	平成28年3月10日	病態獣医学部門
平松 朋子	平成28年3月10日	獣医保健看護学臨床部門
時田 成美	平成28年3月10日	獣医保健看護学臨床部門

他大学での学位取得者（本部受付）

片山理恵子 （獣医47期）	平成24年3月	獣医学博士・（岐阜大学連合大学院）
------------------	---------	-------------------

獣医学科 23 期会を開催

澤田 郁夫

毎年のように活発に会をされている同窓もおられるようですが、我々第23期（昭和46年入学の会）は卒業以来40年ぶりの初の開催でした。平成27年10月11日（日）の12時、運動場も無くなり様変わりした本学中庭に、予定の49名が集結しました。

面影はわずかも覚えていた顔、顔、顔。でも名前が出てこない。どこの研究室だっけ？どこのクラブだったかな？ 出身は？全く覚えていない仲間も。でも時間の経過と



ともに和やかにそれは解決出来ていきました。

まず、本学教授梶ヶ谷君の引率で懐かしい旧校舎（現博物館）より校内ツアーがあり、続いて大学近くの久松にて会を進めました。最初に発起人代表天野君の司会により、逝去された11名の仲間へ黙祷の後、同窓会長中條眞二郎先生の貴重な講演を頂きました。各自1分間のスピーチを行い（時間オーバーで制止される仲間もありましたが）宴は盛り上がり、次回は関西地区で開催することを決め、ほぼ全員が二次会、三次会へと席を移し初の同窓会を心行くまで楽しんだのでした。

母校近況

教員人事

庶務課

一、教員人事（平成27年11月から平成28年7月20日まで）

○新任（平成28年4月1日付）

准教授

佐藤 薫（乳肉利用学）

木村 彰利（食品経済学）

助教

佐藤 由佳（疾病予防獣医学部門衛生・公衆衛生学分野）

木邊 量子（病態獣医学部門感染症学分野）

三浦亮太郎（臨床獣医学部門治療学分野Ⅱ）

○新任（平成28年4月1日付）

特任教授

阿久澤良造（応用生命科学部）

○再任（平成27年12月1日付）

特任教授

清水 一政（獣医学部）

○再任（平成28年5月1日付）

特任教授

山田 裕（獣医学部）

○昇任（平成28年4月1日付）

教授

堀 達也（臨床獣医学部門治療学分野Ⅱ）

有村 裕（動物生体防御学）

准教授

片山健太郎（基礎獣医学部門形態機能学分野）

道下 正貴（病態獣医学部門病態解析学分野）

落合 和彦（獣医保健看護学基礎部門）

皆上 大吾（獣医保健看護学臨床部門）

長田 雅宏（システム経営学）
講師 嶋崎 敏彦（英語学）

榎木 裕貴（基礎獣医学部門形態機能学分野）
藤原 亜紀（臨床獣医学部門治療学分野Ⅰ）
加藤 卓也（疾病予防獣医学部門野生動物学分野）

佐藤 稲子（獣医学総合教育部門獣医学総合教育分野）
小柳 円（動物生体防御学）

○配置換（平成28年5月1日付）
臨床獣医学部門治療学分野Ⅱ 講師
水谷 尚（臨床獣医学部門治療学分野Ⅰ）

○退職（平成28年3月31日付）
講師 大石 元治（基礎獣医学部門形態機能学分野）

○定年退職（平成28年3月31日付）
教授 田口 文広（病態獣医学部門感染症学分野）
鷲巢 月美（獣医学総合教育部門獣医学教育推進室）

阿久澤良造（乳肉利用学）
佐々木輝雄（食品経済学）

○名誉教授の称号授与（平成28年4月1日付）
前日本獣医生命科学大学 教授
阿久澤良造
佐々木輝雄

平成28年度入試結果

学部	学科	試験区分	志願者数	受験者数	合格者数	倍率
獣医学部	獣医学科	(推薦) 一般公募推薦	83	77	20	3.85
		(特別選抜) 社会人	3	2	0	—
		帰国子女及びIB取得者	1	1	0	—
		獣医師後継者育成及び地域獣医療支援	14	13	6	2.17
		学士	18	17	2	8.50
		センター試験利用(第一回)	552	551	42	13.12
		一般入学試験(第一回)	1,040	1,037	126	8.23
	一般入学試験(第二回)	461	410	6	68.33	
	合計	2172	2108	202	—	
	獣医保健看護学科	(推薦) 一般公募推薦	52	52	23	2.26
		(特別選抜) 社会人	1	1	0	0.00
		センター試験利用(第一回)	182	182	75	2.43
		一般入学試験(第一回)	312	308	126	2.44
		一般入学試験(第二回)	73	66	23	2.87
合計		620	609	247	—	
学部合計		2792	2717	449	—	
応用生命科学部	動物科学科	(推薦) 一般公募推薦	33	33	26	1.27
		指定校推薦	5	5	5	1.00
		センター試験利用(第一回)	195	195	71	2.75
		一般入学試験(第一回)	394	384	149	2.58
		一般入学試験(第二回)	115	98	43	2.28
	合計	742	715	294	—	
	食品科学科	(推薦) 一般公募推薦	17	17	17	1.00
		指定校推薦	10	10	10	1.00
		センター試験利用入試(第一回)	147	147	30	4.90
		センター試験利用入試(第二回)	4	4	1	4.00
		一般入学試験(第一回)	282	277	121	2.29
		一般入学試験(第二回)	90	77	23	3.35
		(編入学) 編入学	1	1	0	—
		合計	551	533	202	—
学部合計	1293	1248	496	—		
総合計	4085	3965	945	—		

注) 紙面の都合上、志願者が無かった試験区分は削除した。

平成28年度入学試験結果 教務・学生課

平成28年度日本獣医生命科学大学入学試験においては、昨年度と比べて志願者数が約300名減少する結果となった。

志願者数が減少した理由として、平成28年度入学試験における全国的な志願者傾向として、いわゆる「文高理低」であり、センター試験における数学I・A、化学の難化も影響し、農・水畜産・獣医学部系統において志願者がやや減少傾向であったことが一つの要因と考えられる。

依然として、本学を含む高等教育機関を取り巻く環境は厳しく、今後も状況を精査し、来年度以降も大学教職員が一丸となって、質の良い学生の確保に努めることが必要である。

る。

平成28年度入学試験の変更点として、一般入学試験(第2回)において、平成26年度から獣医学科を除く3学科併願を実施してきたが、平成28年度入学試験より、4学科における併願を導入した。

平成29年度入学試験では、インターネット上で出願を行うWeb出願を導入し、紙の願書を廃止するほか、獣医保健看護学科において指定校推薦入試を実施する。

平成28年度入学者数	
獣医学科	92名
獣医保健看護学科	102名
動物科学科	101名
食品科学科	92名
合計	387名

平成27年度獣医師国家試験について

獣医学科長 小山 秀一

第67回獣医師国家試験は、平成28年2月16日(火)、17日(水)に実施され、その合否結果が3月11日(金)に公表された。今年の受験者総数は1,299人(新卒1,009人)であり、合格率は78.8%(新卒88.0%)、既卒47.9%であった。過去5年間の中でも最も低い合格率であった昨年(全体75.6%、新卒84.8%、既卒35.0%)と比較し今年は全体に回復傾向であった。

大学別の合格率は表の通りであった。本学は、新卒受験者93人中、合格者82人(合格率88.2%)であり、既卒者も25人中15人(60.0%)が合格し、いずれも全国平均を上回った。しかし、新卒者の結果は全国16大学中9位であり、私立5大学では3位であった。

現在の獣医師国家試験の出題数は、必須問題50問、学説問題160問、実地に関する問

区分	大学名	第67回		
		受験者数	合格者数	合格率
新卒者	北海道大学	41	34	82.9%
	帯広畜産大学	38	32	84.2%
	岩手大学	29	27	93.1%
	東京大学	31	26	83.9%
	東京農工大学	36	36	100.0%
	岐阜大学	33	31	93.9%
	鳥取大学	30	29	96.7%
	山口大学	31	26	83.9%
	宮崎大学	31	27	87.1%
	鹿児島大学	30	28	93.3%
	大阪府立大学	39	35	89.7%
	酪農学園大学	146	125	85.6%
	北里大学	130	115	88.5%
	日本獣医生命科学大学	93	82	88.2%
	日本大学	129	117	90.7%
	麻布大学	142	118	83.1%
	新卒者数計	1,009	888	88.0%
既卒者	282	135	47.9%	
受験資格認定者	8	1	12.5%	
予備試験合格者	—	—	—	
合計	1,299	1,024	78.8%	

題120問の合計330問である。そして、合格基準は必須問題が70%以上、他の問題(学説A・B及び実地C・D)の総合点が60%以上となっている。過去5年間の合格率をみると、全体では80%前後(75.6・83.7%)、新卒では90%前後(84.8・91.0%)であり、ほぼ一定の傾向を示しているが、ここ2年はいずれも新卒者の合格率が90%を下回っておりやや低下傾向である。ゆとり世代といわれている現在の学生に対し、自己研鑽意欲をどのように導き出すかが課題と思われる。本学では、6年後期の総合獣医学に加え、学生からの要望に添った国家試験対策講義を土曜学校と銘打って行っているが、従来から行われているグループ勉強のあり方についても今一度見直す必要があると思われる。グループ内でお互いの得意分野、不得意分野を整理し協力してグループ全体のレベルアップが計れるよう努力して頂きたい。また、教員側も今回の結果を分析し、新たな対策を検討していきたい。

平成27年度 学位記授与式

学生支援センター

平成28年3月10日(木) 午前10時から、日本獣医生命科学大学「平成27年度学位記授与式」がアリーナ(体育館)において午前中に学部、午後に大学院の授与式がそれぞれ挙行された。

午前中の学部学位記授与式は、学校法人日本医科大学、母校名誉教授、同窓会、父母会、亜細亜大学学長、獣医師会などから30余名の来賓を招き執り行われた。

獣医学科97名、獣医保健看護学科99名、動物科学科96名、食品科学科78名の合計370名に学位記が手渡された。引き続き学長式

←池本学長挨拶



→同窓会長賞の授与

辞、来賓祝辞のあと、教員免許、人工授精修了書、学芸員単位取得証明書、学長賞、櫻賞、獣医師会褒賞、同窓会長賞の授与があった。同窓会、父母会の記念品贈呈、卒業生代表挨拶のあと学科斉唱後閉会となった。

午後からの大学院学位記授与式では、獣医学専攻博士課程修了者及び論文審査合格者9名、獣医保健看護学専攻博士前期課程修了者及び博士後期課程修了者8名、応用生命科学専攻博士前期課程修了者及び博士後期課程修了者13名の合計30名に学位記が手渡された。

平成27年度 学生表彰 学生支援センター

学長賞、公益社団法人日本獣医師会褒賞、同窓会長賞は最終学年を対象として選出され、武蔵野賞は各学年から選出される。また、櫻賞は課外活動において優れた成果を収めた個人又は団体に贈られる。授与について、最終学年は学位記授与式にて表彰され、在学生は入学式にて表彰された。

学長賞

獣医学科 6年 林 麻央
 獣医保健看護学科 4年 近藤 真由香
 動物科学科 4年 高橋 菜摘
 食品科学科 4年 川島 彩

(社)日本獣医師会褒章

獣医学科 6年 杉浦 壮大

同窓会長賞

獣医学科 6年 赤羽根 僚太
 獣医保健看護学科 4年 梅津 萌子
 動物科学科 4年 沼田 歩美
 食品科学科 4年 大木 真実

櫻賞

動物科学科 4年 碓谷 のぞみ
 馬術部 部長 小沼 将大

武蔵野賞

獣医学科 2年 江藤 由佳
 獣医学科 2年 加藤 瑠惟
 獣医学科 2年 田口 諒
 獣医学科 3年 上玉利 成美
 獣医学科 3年 鈴木 友美
 獣医学科 3年 志賀 佑太
 獣医学科 4年 柴 舞華
 獣医学科 4年 織田 英見

獣医学科	4年	伏居 南美
獣医学科	5年	宮川 寛済
獣医学科	5年	山下 諒
獣医学科	5年	田中 菜都子
獣医学科	6年	伊藤 大貴
獣医学科	6年	藤原 万里子
獣医学科	6年	池田 紘子
獣医保健看護学科	2年	佐々木 舞
獣医保健看護学科	2年	赤堀 由起恵
獣医保健看護学科	2年	小笹 佑実
獣医保健看護学科	3年	兼田 梨沙
獣医保健看護学科	3年	坪内 千春
獣医保健看護学科	3年	後迫 かほり
獣医保健看護学科	4年	武井 和奏
獣医保健看護学科	4年	嵐田 彩奈
獣医保健看護学科	4年	中村 枝里香
動物科学科	2年	市川 みのり
動物科学科	2年	池田 早保美
動物科学科	2年	吉田 南風
動物科学科	3年	樋口 香子
動物科学科	3年	佐藤 李香
動物科学科	3年	甲斐 小百合
動物科学科	4年	大木 妙子
動物科学科	4年	白川 静
動物科学科	4年	丹羽 菜々子
食品科学科	2年	真弓 佳奈子
食品科学科	2年	森 彩圭
食品科学科	2年	中島 理沙
食品科学科	3年	横井 七奈
食品科学科	3年	松原 諄
食品科学科	3年	赤石 幸
食品科学科	4年	小泉 真緩
食品科学科	4年	菅野 究
食品科学科	4年	岡田 彩加

平成27年度 卒業生就職状況

キャリア支援センター 副センター長

清水 謙一

平成27年度の大きなテーマは政府方針の『就職活動の後ろ倒し』にいかに対応できたかでした。前年までと違い、エントリー解禁が卒業年度前の12月から3月へ、採用活動開始(内定出し)が卒業年度4月から8月へ後ろにずれ、就活生の間では内定の声を聞くのが遅くなり不安がる学生が大勢いました。その分、キャリア支援センターとしまして対策を講じ、インターンシップの強化、業界研究を深めるため業界大手企業を招聘し、就活へのモチベーションを上げさせて参りました。その結果、昨年度の実績はこれまでの本学に類を見ない好成績を残せ、学生と教職員との取組みが充実した年になりました。

各学科の実績は下記のとおりです。獣医学科98・7%、獣医保健看護学科98・9%、動物科学科98・7%、食品科学科100・0%と卒業生就職希望者316名中313名(99・0%)が志望の就職先へ決まり全学科とも素晴らしい数字が残せました。学科の内訳ですが、獣医学科では、本学の一番の強みである小動物臨床に57名(67%)と例年より高い数字を示し引き続き動物病院人気の高さが際立ちました。また今年は公務員獣医師8名と公務員人気も高く、農林水産省3名、県庁等5名の獣医師を輩出しました。大学院への進学者は8名で本学を初め、東京大学・大阪大学へと進学していま

す。獣医保健看護学科は、動物看護師の道を選んだ学生が44名(48%)と就職者の半数を占める程志向が高く、学科の特徴が生かされています。その他で顕著な動きに大手ペット保険の関連会社に7名が入社するなど業界の動向が目された年でもありました。また、食品・医薬品メーカーも人気があり6名が就職しています。大学院への進学者は6名で本学を初め、東京大学に2名進学しています。動物科学科は、食品・医薬品メーカーが人気で12名(13%)が就職しました。学科の学びが直接生かせる畜産酪農系企業・牧場や独立行政法人・各種団体に10名が進み業界での活躍が期待されます。大学院への進学者は7名で本学を初め、北海道大学・東京農工大学へと進学しています。食品科学科は、食品メーカーだけで26名(34%)と特化した学科らしい傾向が現れています。また、商社・流通・外食を含めると食品関連産業で53名(69%)と食品への指向の高さに改めて驚かされます。大学院への進学者は2名で本学に進学しています。

現在キャリア支援センターでは、『就職の質』より『就職の質』を追求し、『キャリアの質保証』を目指しています。今年も就活生たちが内定報告に来る時期となりました。「就活が終わりました。有難うございました。」という学生たちの報告を聞くにつけ、「おめでとう。日獣に来てよかったね」という声を返すことにしています。引き続き引き続き就活生全員の笑顔を見られるようしっかり支援させて頂きます。

入試広報センター

平成29年度 入試情報

平成29年度 入学試験		
入試区分	学 科	日 程
推薦・特別選抜(学士を除く)	全学科	平成28年12月4日(日)
センター試験利用	全学科	平成29年1月14日(土)～平成29年1月15日(日)
一 般	第1回	獣医学科 平成29年2月5日(日)※
	第1回	獣医保健看護学科・動物科学科・食品科学科 平成29年2月6日(月)
	第2回	全学科 平成29年3月15日(水)

※獣医学科の一般(第1回)は、1/14・1/15に実施されるセンター試験を一部利用します。

平成28年度 オープンキャンパス

学 科	日 程
全学科	平成28年7月10日(日)
全学科	平成28年8月20日(土)
全学科	平成28年10月2日(日)
応用生命科学部	平成28年11月5日(土)※
獣医学部	平成28年11月6日(日)※

※11/5・11/6は大学祭と同時開催

お問合せ TEL: 0422-31-4151 入試広報センター

第3回獣医生命科学会開催の案内

学会事務局長 新井 敏郎

獣医生命科学会は平成26年11月に第1回大会が開催され、本年秋の大会は第3回大会となります。第3回大会は平成28年11月13日(日)の開催を予定しています。会場は日本獣医生命科学大学E棟1階講義室およびエントランスホールとなります。教育公演、シン

ポジウム、一般演題発表(ポスター)を実施予定です。6月に理事会開催、実行委員会設置、8月に開催案内(演題募集を含む)通知の予定で準備を進めています。学会を設立して日が浅く、財政基盤がまだまだ弱く、従来の学術交流会のように隔年での地方開催を実施することができません。多くの同窓生に会員になっていただき、多くの演題を発表していただくことで学会が発展していくものと考えています。第3回大会に、多くの同窓生にご参加いただきたくお願い申し上げます。

平成27年度梅野信吉賞受章者決定

選考委員長 食品科学科教授

中山 勉

梅野信吉賞は、本学に在籍する専任教員を対象に、顕著な研究業績をあげ本学の榮譽に貢献した教員（ポストドクターを含む、ただし教授は除く）を顕彰する制度である。

平成27年度は、3名の応募者があり、2学部4学科（付属動物医療センター含む）の教授15名で構成される当該選考委員により受賞者の選考を行った。選考基準に沿って厳格に選考した結果、国際的な学術誌において関連研究が多数公表され高い評価を受けている獣医学部 獣医保健看護学科 獣医保健看護学応用部門の吉村久志助教に決定した。

吉村助教は平成19年3月に日本大学 生物資源科学部 獣医学科を卒業後、日本獣医生命科学大学大学院 獣医生命科学研究所 獣医学専攻博士課程にて獣医病理学研究室 高橋公正教授に師事し、平成24年3月に博士（獣医学）の学位を所得した。同年4月から日本医科大学 病理学（統御機構・腫瘍学）講座でポストドクターとして、また平成25年4月からは日本学術振興会 特別研究員IPDとして、石渡俊行博士（現 東京都健康長寿医療センター研究所 研究部長）のもとでヒトの腫瘍の分子病理学的研究に従事した。平成26年7月に本学 獣医保健看護学応用部門 病態病理学研究分野に助教として着任した。医学領域の技術を獣医学の診断や研究に取り入れること、また逆にイヌ、ネコの

研究で得られた成果をヒトの病気の理解に生かすことを目標に実験を進めている。

梅野信吉賞のテーマは「イヌおよびネコ乳腺腫瘍の癌微小環境に関する病理学的研究」であった。研究の概要は以下の通りである。

「研究概要」

これまでの癌研究の多くは、癌細胞自体の特性に着目したものであった。しかし癌組織には、癌細胞に加えて様々な種類の間質細胞および細胞外基質から構成される癌微小環境が存在し、そこで織りなされる癌細胞と間質の相互作用が、癌の進展に重要な役割を果たしていると考えられる。本研究題目では、イヌとネコの乳腺腫瘍の間質を二重免疫組織化学や免疫組織化学 in situ hybridization 二重染色などの高度な病理学的技術を用いて解析した。その結果、乳腺腫瘍の悪性度に伴って間質に筋線維芽細胞が出現することや、同細胞が細胞外基質 T enascin-C を産生することで癌の進行に寄与していることなどを見出した。今後は癌の間質を標的とした新たな癌治療法の開発が期待される。

梅野信吉賞の授賞式は平成28年4月5日の入学式で行われ、池本学長から賞状および副賞（同窓会贈呈）が贈られた。また本研究内容は本年度の日本獣医生命科学大学学術交流会において披露される予定である。

平成28年度入学式

学生支援センター

平成28年4月5日（火）午前10時から「日本獣医生命科学大学入学式」がアリーナ（体育館）において、学校法人理事、日本医科大学関係者、母校名誉教授、同窓会役員、父母会役員など来賓出席のもと挙行された。

獣医学専攻博士課程10名、獣医保健看護学専攻博士前期課程8名、同後期課程1名、応用生命科学専攻博士前期課程4名、同後期課程1名、獣医科学科92名、獣医保健看護学科102名、動物科学科101名、食品科学科92名の合計411名が入学した。

新入生紹介に始まり、学長式辞、来賓祝辞の後、同窓会及び父母会から記念品が贈呈された。引き続き学生表彰、梅野信吉賞、紫雲賞の授与式があり学科斉唱後閉会した。

←池本学長祝辞



→中條会長祝辞



←同窓会記念品贈呈



紫雲台の2015年

学長 池本 卯典



同窓会員の皆様、御元気に日本各地で御活躍のこととお慶び申し上げます。会報をお借りして大学事情の一部を紹介させて頂きま

動物看護師の公認は悲願

昨今の文部科学省は、中教審、教育再生会議の意見を反映して、まさにコペルニクスの回転です。特に本学との関連が深い職業専門大学設置などは、コーポレート・ガバナンスと対峙せざるを得ない事情も起きてきました。既成の職業専門大学にメリットはあるのか、文部科学省の憂慮をメディアは報道しています。本学の獣医保健看護学科創設は平成17年、と同時に医療における4年制看護学科の受益権である看護師・保健師・助産師と同様に国家資格としての動物看護師制度を要望しながら創設しました。平成23年第177回通常国会における衆議院では城島議員、参議院では町村議員が、家畜伝染病予防法改正における附帯決議として《獣医以外の獣医療従事者としての動物看護師の制度化》について

検討することを加えて下さいました。また、同年4月15日に開かれた衆議院予算委員会において、公明党の高木議員は動物看護師の国家資格化を採り上げて下さいました。しかし、その後進展は見られません。新職業専門大学設置論の前提に放任され続けている動物看護師の公認制度化を切望する次第です。昭和25年、無私奉仕、奔走説得、議員立法として狂犬病予防法の制定に人生を賭けられた本学の先輩で熊本県選出の原田雪松衆議院議員と、同県人で私立獣医学校一期生梅野信吉博士（日本獣医学校第4代校長）が創製した狂犬病予防ワクチンの有効性を、狂犬病予防法によって普及し、撲滅を果した2人の世代を超えた絆は、逸話を超えた本学の建学理念の発露といえましょう。

大学の2015年

平成27年度の事業活動収支決算書によりますと、法人の収入実績は88,587百万円、支出実績は91,275百万円であり、支出超過となりました。法人傘下にある本学の収入実績は4,578百万円、支出実績は3,868百万円であり収支差額は710百万円を計上しました。一方、文部科学省による経常費補助金は5億6千万円（566大学中122位）、科学研究費の助成は7千400万円の交付を受け、小規模大学としてはトップクラスに位置しています。現在の教員数は常勤123名、非常勤111名、職員数は74名（パート、臨時職員を含む）、動物医療センター（助手を含む）、動物医療センター担当教員数25名（助手も含む）により運営が続いています。学生数は、獣医学科（6年制）569名、

獣医保健看護学科（4年制）406名、動物科学科（4年制）392名、食品科学科（4年制）357名。全学生総数は1,724名（学生収容定員 1,600名）。そのうち女子学生は1,137名、男子学生は587名であり、女子学生型の大学施設整備が要望されている昨今です。

大学院は、獣医学博士課程22名、獣医保健看護学修士課程16名、同博士課程2名の54名です。大学院定員は24名であり、大学院生の減少時代にも拘らず、幸い本学の大学院生数は充足し、研究成果の躍進も期待されているところです。

就職率は就職希望者全員が就職し心配はありません。獣医師国家試験の現役卒業生の合格率は88.2%（全国平均88.0%）。国公立16大学の中心でした。学生の質の保障は大学の責務、獣医学教育の国際認証を目標に推進室を設置し、同時に看護・動物・食品の各科目、新しいカリキュラムポリシーを提示して改革に努めているところです。

農学と医学の連携

本学の獣医学部（獣医学科・獣医保健看護学科）、応用生命科学部（動物科学科・食品科学科）の属する学問分野のカテゴリーは農学系であり、その農学系分野における《農と医の連携論》は古くて新しい話題です。10年以上前の1912年にノーベル生理学・医学賞を受賞されたアレキサンダー・カレル博士は、地球と健康について次のように警告しています。『土壤は人間生活全般の基礎である。それが近代的な農業経済学の手法による開発で崩壊した。その崩壊した土地を再び回復させること以外に、人間が健康に生活できる環

境を取り戻すことはできない。土地の肥沃度に生物の健康は影響を受ける。その理由はすべての食物は直接または間接に土壤によって生産されるからである。』と。またカレル博士は医と農の関連を土壤と食物の栽培、食物と健康との連鎖についても詳しく説明しておられます。それ以前に、医聖ヒポクラテスは『食べ物について知らない人が、どうして人の病気について理解できようか。』と述べておられます。この箴言こそ、まさに農と医の連携について、その本質を示す強烈なメッセージといえましょう（『農医連携論』陽捷行著より引用）。

本学では、この農と医に関連する4学科が連携し合いながら、獣医学科は、家庭動物や産業動物の医療、人獣共通感染症の防疫、公衆衛生等の領域に。獣医保健看護学科は、動物看護、動物介在活動、動物福祉等の領域に。動物科学科は、食用動物の生産、生態、機能、環境、衛生等の領域に。食品科学科は、食品の美味しさ、安全性、栄養、食文化、食品衛生、流通等多領域における、教育、研究、社会貢献に努めているところです。

さらに本学は学校法人日本医科大学の傘下、合同教育棟E棟には医学部基礎科学課程の教職員による教育、研究活動が開始されて2年目、農と医の連携についても一層深化し、斯学の先端と注目されているようです。この比類なき大学組織を活用し、新しい発想を練り、創造と進化に向けて踏み出したいと考えています。同窓会諸兄の御協力を切に願います。末辞になりますが、皆様の御健康を心からお祈り致します。